

令和2年度 第3回日本脊椎脊髄病学会 安全医療推進委員会 議事録

2020.09.16(水) 19:00-20:45

場所：オンライン会議(会議主催地：名古屋大学医学部附属病院 会議室)

出席委員： 高相(担当理事) 今釜(委員長) 相澤 大谷 奥田金村
小西 須田 中西(書記) 西田 宮腰 大和 湯川 (敬称略)
欠席委員： 村上(敬称略)
その他： 松山(理事長) 川口善治(富山大学) 酒井紀典(徳島大学)
(敬称略)

議事

1. 報告事項

(ア)日本脊椎脊髄病学会理事会報告：高相(担当理事)

本日の検討事項(イ)でもある抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスクについての議題が上がった。循環器領域からでた新しいガイドラインが脊椎手術の現状に即していないのではないかとこのことで日本脊椎脊髄病学会として検討していくべきであるとの提案があったことをご報告いただいた。

(イ)JSSR 統合型DB 進捗状況：金村先生

システムの構築など現状をご報告いただいた。

2. 検討・確認事項

(ア)富山大学川口先生よりレベルエラー研究のプレゼンテーションと検討

川口先生より、脊椎外科手術におけるレベルエラーの現状把握とエラーを防ぐための研究について調査項目とともにご提案があった。

委員より以下のような意見が出た。

- ・対象を会員すべて or 指導医のみにするか
- ・紙ベース or メールや放射線アンケートのようなHP上ですか
- ・レベルエラーの定義をきちんとすべき：疾患や手術法、そして起こったときの重症度(インシデントレベル)によっても違うのではないか
- ・アンケートでは執刀医と助手になっているが、それぞれがアンケートに回答するとダブルカウントになるので、施設で1つの回答にしてはどうか
- ・複数回エラーを起こした場合には、それぞれの状況も違うのでそれに対応したアンケートにすべきではないか
- ・特定できないようにするために無記名としたが、そうすると研究ではなく、調査になり、信頼性に欠けるのではないか
- ・倫理については、

- 1) まずは、富山大学と JSSR の倫理委員会にそれぞれかけるべきである
 - 2) アンケート対象の病院でそれぞれ倫理委員会にかけるかどうかについては JSSR の倫理委員会で相談してみてもどうか
 - 3) 対象病院数が出ないと信頼性が落ちるので、やはり各病院で倫理にかけるのが良いのではないか
- 今回の意見を踏まえて、提示されたアンケートを練り直して、川口先生にはまずは JSSR の倫理委員会にかけていただくことになった。

(イ)抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスクについて：松山理事長、酒井紀典先生
酒井先生より、脊椎手術術前に抗血小板剤休薬可否について循環器内科と検討した際、2020 年循環器領域から刊行されたガイドラインに記載のある脊椎手術が出血の低リスク、中リスクに分類され、術後硬膜外血腫や頸椎前方固定術後の血腫などについて不明であることが判明した。2020 年 8 月の、JOA 安全推進委員会でも提言し現在文献によるエビデンスの渉猟中であるが、JSSR と JOA で歩調を合わせ、対応を検討するご提案があった。

松山理事長からは、抗血小板剤を休薬したことによって急性心筋梗塞が起こった事例を提示していただき、脊椎外科医、皆に周知してもらおうべき以下のようなことが分かったと提言をいただいた。

- 1) スtentにも種類があり初期のstentが入っている時には休薬は危険である。どの時期のstentかをしっかり事前に確認すべきである。
- 2) 薬を2剤以上飲んでいても休薬は危険である
- 3) 今まで普通に行っていた術前ヘパリン化は意味がない
- 4) これらを踏まえたうえで、脊椎外科医と循環器が術前によく相談して、お互いのリスクを考えた上で、現状としては標準的な方針を立てることは難しく、ケースバイケースで対応していくしかない

そしてこれらを踏まえて、本委員会のプロジェクトとして抗血小板剤の休薬についての調査をおこなってはどうかとの提案をいただいた。

委員からは、

・確かに海外からは、抗血小板剤や抗凝固剤の休薬による合併症の study はあるが、日本からの多施設の study は見受けられない。日本人は欧米人とは凝固能が違うため、日本独自の study を行うのは非常に有用である。まずは疾患や手術を絞って study を行うのはどうかという意見が出た。

・JOA と歩調を合わせながらアンケート調査を行う方向で進めていくことになった。

・また、今回の検討事案（松山理事長からの4つの提言）について会員に一刻も早く周知してもらうことも重要であるとの提案があった。
早急に、ニュースレターや学会ホームページに本委員会として発信する予定。

3. 次回委員会開催日

- ・約1ヶ月後のJSSR理事会開催後に予定（1時間の見込み）
- ・スケジュール調整アプリを用い、出席多数の日程で開催する。
- ・松山理事長にも都合がつけば参加いただくことになった。
- ・抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスク検討の際は酒井先生も委員会に参加いただくこととなった。